

平成27年度

病害虫発生予察特殊報(第3号)

平成27年 11月 17日

神奈川県農業技術センター

病害虫名：メボウキ（バジル）べと病（仮称）

病原名：*Peronospora belbahrii*

作物名：メボウキ（バジル）

1 発生経過

- (1)平成27年7月に県東部の露地ほ場で栽培されているバジルにおいて、葉の黄化および葉裏に灰白色霜状の菌体を生じる症状を示す株が認められ(図1,2)、当センターに診断同定依頼があった。
- (2)顕微鏡観察による分生子柄の形態的特徴から、葉裏の灰白色菌体は、べと病菌主要属のうち *Peronospora* 属であると推定した(図3)。
- (3)ITS領域の塩基配列を解析したところ、既知の *Peronospora belbahrii* とほぼ一致したことから、*P. belbahrii* によるメボウキ（バジル）べと病（仮称）と診断した。
- (4)本病害の神奈川県内での発生確認は初めてである。国内では、茨城県、静岡県などで発生が確認され、平成27年度日本植物病理学会で報告されている。

2 病徴および生態

- (1)葉の裏面に灰白色霜状の菌体を生じる(図2)。また、菌体の発生した葉は黄化症状を示す(図1)。
- (2)病徴が進展すると葉の裏面全体が黒～灰白色の菌体で覆われ、落葉、株の枯死につながる。
- (3)病原菌である *P. belbahrii* は、葉裏の気孔から外表に分生子柄を伸長し、樹状に分岐後、円錐形の先端部に分生子を形成する。
- (4)罹病植物体およびその残渣が伝染源となり、分生子により空気伝染する。

3 防除対策

- (1)多湿条件で発生が助長されるため、密植を避け、水はけ・通風・採光をよくする。
- (2)発病株を確認したら、速やかにほ場外へ持ち出し適切に処分する。



図1 葉の黄化症状



図2 葉裏の灰白色霜状の菌体



図3 光学顕微鏡により観察された病原菌の分生子柄

神奈川県農業技術センター 病害虫防除部
〒259-1204 平塚市上吉沢1617
TEL 0463-58-0333 FAX 0463-59-7411
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450002/>